

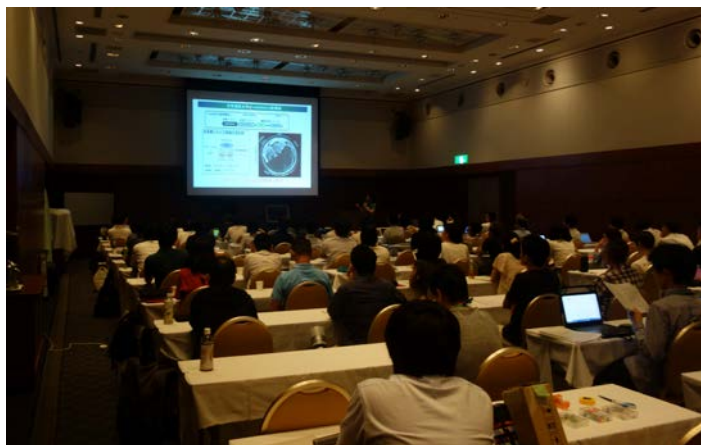
公益社団法人 日本農芸化学会 2017年度若手発案企画①

(報告者: 渡辺智)

梅雨に戻ったかのような雨模様から一転、残暑の厳しい気候となった8月最後の週末25日(金)、26日(土)に2017年度グラム陽性菌ゲノム機能会議をKKRホテル熱海(静岡県熱海市春日町7-39)にて開催いたしました。

本研究会には大学および企業から87名の方々に参加いただきました。口頭発表19件、ポスター発表39件の発表があり、外の熱気に負けないアツい議論が展開されました。

口頭発表会場



慶応大学の河野暢明先生のご発表。ゲノムを大規模に改変した枯草菌を用いてDNA複製や転写への影響についてご講演いただきました。



摂南大学の高松宏治先生のご発表。グラム陽性菌はじめ、微生物を染め分ける蛍光染色剤について貴重な情報をご提供いただきました。



企画発案者、渡辺の発表。枯草菌を用いたゲノム改変法について発表させていただきました。

グラム陽性菌を様々な角度から俯瞰した新しい研究の方向性についても議論することができました。

JSBBA KANTO



特別記念講演として、長年に渡って枯草菌研究に貢献された吉川博文先生（東京農業大学名誉教授）よりご講演いただきました。これまでの枯草菌研究の歴史と先生の研究成果、展望まで幅広い内容をお話してくださいました。

ポスター発表会場



ポスター発表は、特に学生達が活発に議論している様子が印象的でした。教員や研究員もこれに加わり、研究のさらなる発展に向けた議論が展開されました。



初日の夜はホテル内の会場にて懇親会が開催されました。リラックスした雰囲気の中、教員、学生の枠を越えた議論を行うことができ、大変有意義な時を過ごしました。総合討論においては国際グラム陽性菌学会開催に向けた意見交換に加え、中堅、シニアの先生方がグラム陽性菌研究の展望をお話し下さいました。

本シンポジウムは、特に若手研究者や大学院生を交えた双方向的人材交流について大変効果的であったと感じております。特に若手研究者の先生方には、この研究討論会で得た意見や知識を活かして今後の研究活動を更に発展させて頂きたいです。末筆ではありますが、ご講演いただきました先生方、研究会の開催・運営にご協力いただきました皆様、そして本企画を援助いただいた農芸化学会関東支部の皆様には厚く御礼申し上げます。